

一般質問 本物志向で安心安全を 食品添加物巡り知事と質疑

9月定例会の一般質問は「食のみやこ鳥取県は本物かpart II」と題して食品添加物の問題を中心に平井知事と論戦を交わしました。食と農に造詣が深かった川瀬滋子市議が6月に亡くなられたことから、「川瀬さんの食の安心安全にかける思いを政策の基本にすべきでは」と質すと、「実践の人でした」と知事は思ひ出を語られました。

知事 見習いたい川瀬さんの実践

「川瀬さんから食についてたくさん学んだが、一番心配されておられたのは食品添加物の問題だ」と指摘すると、知事は「心からこ

「冥福をお祈りします」と述べられた後、「執行部の人間にとつて、かけがえのない先輩。川瀬さん自身が実践家であった。格好の良い

ことを言うだけではなく、自から汗をかき、現場に入つていく姿勢を我々県職員は見習わなければいけない

知事 添加物を推奨していない

食品添加物の使用基準は動物実験での結果などから決められているが、評価時点の科学的知見に従ったものに過ぎず、使用許可を取り消された添加物は83もある。味覚への影響の指摘もあり、使わなくてよいなら使わない方がいいとデータを挙げて指摘しました。

県が大手食品メーカーと展開している地産地消キャンペーンも、添加物を使ったメニューが推奨レシピとなつている。料理は文化であり、出汁を使った本物志向で食のみやこは進めるべきだとも提言しました。

「い」と振り返られました。「地域の食材を使って、こだわりを持った郷土食を推奨をされておられた姿が印象的でした」と話され、「食のみやこ鳥取は、食の安心安全を重視しながら展開をしていきたい」と応じていただきました。

私は「消費者の皆さんが判断すればいいが、県が添加物を使ったレシピを推奨し、化学調味料が天然原料で製造されていると誤解を与えるようなクイズを子どもたちに出していいのか」と質問を重ねました。

最後には「添加物を推奨しているわけではない。関係者と進め方を話し合つてみたい」と知事に答弁いただきましたので、理解を得られたように思います。

県教委 食育の意味見直したい

県教委の中島教育委員長には「添加物をどう教えているのか」と尋ねたところ、「教科書の記述はニュートラルだが、市販のプリントと手作りのプリンを比べると授業など、教師が子どもたちに自分たちで判断できる力を付けさせられるよう工夫している」と回答いただきました。生産者や調理してくれた人に感謝することを教える食育を進めてはと提言。賛同をいただきました。

知事 地下水対策を中電に求めたい

福島第一原発で、汚染された地下水が太平洋へ流出し、太平洋の魚介類に対する安全が脅かされると指摘。中電に万全の対策を求めよう知事に提言いた

しました。知事は「原因は原発事故に対する対応の甘さと思う。その反省を基準づくりや安全対策に盛り込むよう申し入れたい」と答弁いただきました。

